

生産面における主要品目の課題及び施策の方向

平成17年1月28日

農林水産省

品目	課題	対応方向
米	<p>市場シグナルに鋭敏な担い手(集落営農を含む(注))が大宗を占める水田農業構造を確立</p> <p>消費者の多様なニーズや外食・中食等が求める品質・ロット等に対応できる生産・流通体制を確立</p> <p>担い手の生産規模の拡大、低コスト技術体系の導入・定着等による収益性の高い水田農業を確立</p>	<p>地域水田農業ビジョンの確立等を通じた担い手への農地利用の集積や集落営農の組織化を推進</p> <p>新形質米品種の開発・導入、環境保全型農業を推進</p> <p>外食・中食等のニーズに対応したきめ細かな品質管理、仕分け保管・出荷を可能とする産地体制の整備を推進</p> <p>水稻直播等による低コスト水田営農体系を確立</p>
麦類	<p>実需者ニーズ、産地の条件に応じた麦種・用途毎の計画的生産を推進</p> <p>実需者のニーズの生産者への的確な伝達、産地単位での品質管理の強化、加工適性の高い品種の育成・導入の加速化等により、品質向上を促進</p> <p>担い手の生産規模の拡大、早生多収品種の育成・導入等による雨害の軽減等により、生産コストを低減</p>	<p>民間流通制度の見直し等による実需者ニーズに応じた良品質麦の計画的な生産</p> <p>品質に重点を置いたランク区分の設定や麦種転換の推進等により、麦種・用途に応じた生産の誘導</p> <p>育種段階からの実需者評価の実施、実需者・生産者の合意形成の促進等による加工適性に優れた新品種の育成・導入を加速化及び品質分析に基づいた仕分け出荷の推進</p> <p>担い手への麦作の集積の加速化や生産の組織化等による生産規模の拡大及び早生多収品種の育成・導入、作柄安定化技術の普及等により、単収の向上・安定化を推進</p>
甘しょ	<p>食品加工業との連携強化、加工適性の高い品種の育成・導入、原料供給体制の整備等により、焼酎等の加工用の生産を拡大</p> <p>担い手の生産規模の拡大、機械化一貫体系の導入等により、労働時間を低減</p>	<p>育種段階からの実需者評価による加工適性の高い品種の育成・導入の加速化、定温定湿貯蔵庫の整備による供給期間の拡大等により、実需者のニーズに応じた供給体制の整備を推進</p> <p>担い手への農地の集積等による生産規模の拡大に対応した高性能作業機械の導入等を推進</p>
馬鈴しょ	<p>外食・食品加工業との連携強化、加工適性の高い品種の育成・導入、原料の安定供給体制の整備等により、加工食品用の生産を拡大</p> <p>新たな高品質省力栽培技術の確立、品種の特性に応じた栽培技術の励行等により、生食・加工食品用の単収・品質の向上に加え労働時間を低減</p>	<p>育種段階からの実需者評価による加工適性の高い品種の育成・導入の加速化、低温定湿貯蔵庫の整備、リレー出荷 による高品質原料の周年供給等により、実需者のニーズに 応じた供給体制の整備を推進</p> <p>切断作業が不要な小粒種いもを使い、効率的な収穫が可能でいもに傷が付きにくい栽培体系(傷の原因となる石や硬い土壌を植え付け前に畝から除去)の導入等を推進</p>

(注)経営主体としての実体を有し、将来効率的かつ安定的な農業経営に発展していくことが見込まれる集落営農

品目	課題	対応方向
大豆	<p>気象条件・土壌条件に応じた耕起は種技術の確立等による 湿害等の軽減、契約栽培取引の改善等により、実需者の求 める大豆の生産・供給を安定化</p> <p>担い手の生産規模の拡大、加工適性に優れコンバインでの 収穫に適した品種の育成・導入等により、生産コストを低減</p>	<p>雨による播き遅れや発芽不良等を回避するための、産地の気象条件・ 土壌条件にあわせた不耕起は種等の耕起・播種技術の確立・普及によ る安定生産の実現</p> <p>契約栽培取引や流通制度の改善等により、実需者ニーズを的確に反 映した生産を推進</p> <p>担い手への生産の集積及び機械化一貫体系、無中耕・無培土栽培 等の省力化技術の確立による低コスト生産を推進</p> <p>育成段階からの実需者評価により、豆腐用等の加工適性・機械化適 性の高い品種の育成・導入の加速化</p>
野菜	<p>生産・流通対策の重点化、低コスト温室の開発・導入等によ る担い手を中心とした競争力の高い産地の育成。</p> <p>きめ細かな需要に対応した栽培技術体系の確立、一次加工 機能の確保、周年供給の推進等を通じた加工・業務用需要へ の対応の強化</p> <p>消費者へのより新鮮、安心な野菜の供給等高付加価値化 に向けた取組等の強化。</p>	<p>生産・流通対策の担い手の育成・確保を明確化した産地への重点化、 更にコストを抑制した温室の開発・導入や機械化一貫体系の確立等を 推進。</p> <p>加工適性に優れた品種の導入、下ごしらえ等一次加工・鮮度保持の 機能の確保、産地間の連携による周年供給等を推進。</p> <p>新鮮さ等に加え、糖度等の食味、健康増進効果等の機能性を重視し た高付加価値化等の取組を推進。</p>
果実	<p>担い手の育成・確保、生産性向上への取組を計画的に行う 産地の育成。</p> <p>産地の販売戦略に基づき、品質や端境期等に対する、ニー ズに応じた供給体制を確立</p>	<p>産地が主体となって策定する果樹産地構造改革計画に基づき、担い 手を明確化し、園地集積、基盤整備、労働力確保、省力・低コスト技術 の導入等を推進。</p> <p>供給過剰が見込まれる品目・品種から、国産果実の端境期需要への 対応など消費者ニーズに応えうる高品質品目・品種への改植等を推進。</p>

品目	課題	対応方向
畜産物	家畜排せつ物の適正な管理及び有効利用を推進	環境保全効果の高い家畜排せつ物処理施設への移行や、たい肥の需給を踏まえた家畜排せつ物の地域循環利用・高度利用・広域利用を推進
生乳	<p>新規就農の促進等による担い手の育成・確保、乳用牛の能力向上や飼養管理技術の高度化等を通じた低コスト化、支援組織の活用による省力化等を通じた経営体質の強化</p> <p>輸入品に対する競争力を有する生クリーム等の液状乳製品、チーズ等の需要拡大及び流通・加工コストの低減を図るための生産・供給体制を確立</p>	<p>研修システムの整備や、離農跡地等の有効利用による円滑な経営継承の推進による新規就農の促進</p> <p>乳用牛の改良の推進及び新技術の活用等による飼養管理の普及を通じた低コスト化の推進</p> <p>酪農ヘルパー、コントラクターや、公共牧場等の活用の促進による省力化の推進</p> <p>生クリーム等液状乳製品、チーズ等に仕向けられる生乳の供給拡大、高付加価値化、集送乳及び乳業の合理化による流通・加工コストの低減を推進</p>
牛肉	<p>新規就農の促進等による担い手の育成・確保、繁殖雌牛の増頭による規模拡大や産肉・繁殖能力の向上による低コスト化、支援組織の活用による省力化等を通じた経営体質の強化</p> <p>業務用・加工用需要に対応した生産・供給体制を確立</p>	<p>研修システムの整備や、離農跡地等の有効利用による円滑な経営継承の推進による新規就農の促進</p> <p>遺伝的能力の高い繁殖雌牛の導入による規模拡大及び肉用牛の改良等を通じた低コスト化の推進</p> <p>肉用牛ヘルパー、コントラクター等の活用の促進による省力化の推進</p> <p>食肉処理施設における実需者のニーズに応じた分割機能の高度化等を通じた高付加価値化を推進</p>
豚肉	<p>産肉・繁殖能力の向上、飼養管理技術の高度化等による一分娩当たり生産頭数の増加等を通じた経営体質の強化</p> <p>業務用・加工用需要に対応した生産・供給体制を確立</p>	<p>種豚の改良及び人工授精の普及等を推進</p> <p>食肉処理施設における実需者のニーズに応じた分割機能の高度化等を通じた高付加価値化を推進</p>
鶏肉	<p>産肉能力の向上、飼養管理技術の高度化、消費者のニーズに対応した高品質鶏肉の生産等を通じた経営体質の強化</p> <p>業務用・加工用需要に対応した生産・供給体制を確立</p>	<p>肉用鶏改良、在来鶏等を活用した高品質鶏肉の生産、地鶏特定JASへの対応等の銘柄化の取組を推進</p> <p>食鳥処理施設における実需者のニーズに応じた分割機能の高度化等を通じた低需要部位の高付加価値化を推進</p>
鶏卵	<p>産卵能力の向上、飼養管理技術の高度化、消費者のニーズに対応した付加価値の高い鶏卵の生産等を通じた経営体質の強化</p> <p>需要動向に対応した計画的な生産の実施</p>	<p>採卵鶏改良、付加価値の高い鶏卵の生産等による銘柄化の取組を推進</p> <p>生産者の自主的な取組による需給動向に応じた計画的な生産を推進</p>

品目	課題	対応方向
飼料 作物	<p>耕畜連携の強化による転作田での作付の拡大、国産稲わらの利用拡大等により、飼料作物の生産を拡大</p> <p>低・未利用地を活用した放牧の拡大、草地の集積・団地化、優良多収品種の導入、計画的な草地更新、コントラクター等の育成・活用等を通じた生産コストの低減</p>	<p>耕畜連携による稲発酵粗飼料(WCS)や水田裏作飼料の作付け、国産稲わらの飼料利用、良質なたい肥の耕種農家への供給等の取組を推進</p> <p>耕作放棄地、野草地等の低・未利用地での放牧の推進とともに、農地の畜産農家への集積・団地化、優良多収品種の導入、計画的な草地更新を推進</p> <p>コントラクターや公共牧場の活用を推進</p>
てん菜	<p>直播栽培技術の普及等により、生産コストを低減</p> <p>需要動向に対応した計画的生産を推進</p>	<p>低温下で発芽・生育が良い品種の育成・導入等による直播栽培の普及や生産規模の拡大に対応した大型・高性能機械施設の導入等を推進</p> <p>てん菜糖の需要動向を踏まえて策定した作付指標に基づく計画的生産を推進</p>
さとう きび	<p>担い手の生産規模の拡大、機械化一貫体系の導入等により、労働時間を低減</p> <p>優良品種の育成・導入、収穫作業の平準化による適期植付、早期株出管理の実施等を通じた生産性の向上</p> <p>これらを通じた生産コストの低減</p>	<p>農業生産法人等の生産組織の育成、農地の利用集積と地域の実情に応じた農作業機械の活用による機械化一貫体系の導入を推進</p> <p>高糖・安定多収品種等の育成・導入を推進</p>
茶	<p>摘採の機械化、品種構成の適正化等により、主産県における労働時間を低減</p> <p>栽培加工技術の高度化により、高品質・高付加価値化を推進</p>	<p>乗用型摘採機、優良品種の普及等により、省力化を推進</p> <p>高度な加工が可能となる荒茶加工施設の整備を推進</p>